2018 年度 ITEC 年次報告書

ITEC Annual Report 2018

同志社大学

技術・企業・国際競争力研究センター(ITEC)

同志社大学 技術・企業・国際競争力研究センター(ITEC)
2018 年度年次報告書

目次

１．技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）について …… 2

２．センター長挨拶 …… 3

３．構成員一覧 …… 5

４．2018 年度の主な活動 …… 8

５．2018 年度研究プロジェクト

5.1　プロジェクト１　「自動車の革新的技術の社会的インパクト」…… 10

5.2　プロジェクト２　「地域コミュニティと革新的技術」…… 12

5.3　プロジェクト３　「AI と人にやさしい未来社会の構築：フューチャー・デザインによるアプローチ」…… 13

5.4　プロジェクト４　「Fintech の進展と新しいビジネスモデルのあり方に関する実験社会科学研究」…… 15

６．ITEC セミナー開催 …… 17

７．イベント・トピックス

7.1　第 16 回 ITS シンポジウム 2018 …… 22

7.2　同志社大学室町キャンパス「室町祭」…… 24

7.3　京都社会人交流会「NEXUS」…… 25

7.4　デンマーク視察団来訪 …… 25

８．研究成果物

8.1　ワーキングペーパー …… 26

8.2　論文・投稿 …… 26

8.3　研究発表・講演 …… 27

１．技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）について

ITEC の研究は、３つの目標を持っています。

第 1 の目標は、新しい科学技術を、将来の人類社会の発展に結びつけるための社会の仕組みを議論する、未来社会志向型社会科学研究の推進です。第 2 の目標は、理工系研究と社会科学系研究を融合させる為の、プラットフォームとしての役割の推進です。第 3 の目標は、現代科学技術に対する社会的知見・教養の普及・浸透を狙いとする、21 世紀型科学・技術リベラルアーツ教育への貢献です。

ITEC は、この目標を実現するため、さまざまな研究機関と目標や研究リソースを共有し、学内外、国内外に開かれた組織（Openness）として運用しています。また、その成果は、学術的に優れた（Excellence）ものであることに留まらず、社会との関連性（Relevance）を可能な限り追求し、公共政策の策定や産業活動に貢献していくことを目指しています。そして、企業や行政との連携を強化し、企業ならびに産業の活性化に貢献していくことを重視しています。

より詳しい情報は、下記ホームページでご覧いただけます。

https://itec.doshisha.ac.jp/

About ITEC (Institute for Technology, Enterprise and Competitiveness)

ITEC research has three objectives.

The first is the promotion of social sciences research oriented towards future society that discusses the societal mechanisms to connect new science and technology to the progress of future human society. The second is the promotion of the Institute's role as a platform that brings together research in the field of science and technology with research in the field of social sciences and humanities. The third is the contribution to the 21st century-style science and technology liberal arts education that aims to spread and permeate society's knowledge, culture and judgement in modern science and technology.

ITEC, to fulfill these objectives, operates an organization that shares its objectives and research resources with various research institutions and is open to those inside and outside the university, as well as those in Japan and abroad. Furthermore, we aim to pursue not only excellence in academia with our achievements, but also relevance in society, through contributions to public policy planning and industrial activities. In addition, we place great importance on strengthening cooperation with companies and the government, and contributing to the revitalization of companies and industries.

For further information, please visit the ITEC website:
https://itec.doshisha.ac.jp/en/index.html

２．センター長挨拶

技術公共政策領域の学術的発展を目指して

技術・企業・国際競争力研究センター長
三好 博昭（みよし ひろあき）

「技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC : Institute for Technology, Enterprise and Competitiveness）」は、2016 年度より、2003 年の発足当時から蓄積してきた技術経営分野の成果・蓄積を踏襲しつつ、技術公共政策領域を新たな重点的研究と位置づけ、情報工学・エネルギー工学等の理工系領域の研究者と、法学・哲学・社会学・経済学等の人文社会科学系領域の研究者の融合組織で、新しい技術に対応した社会のあり方を探求する研究センターへと転換させてまいりました。

最新の科学技術、例えばビッグ・データ処理技術や AI の進展は、人類社会の発展に大きく寄与することが期待されている一方で、人間と機械との関係、人間と人間の関係、さらには人の人としての生き様にまで大きな影響を及ぼすことが予想されています。そうした技術を効果的に活用するためには、技術の発展を展望し、その活用と制御の仕組みを、理工系領域の研究者と共に議論していく社会科学研究が必要不可欠であると考えます。こうした問題意識の下、ITEC は、１）未来社会志向型社会科学研究の推進、２）理工系研究と社会科学系研究を融合させるプラットフォームとしての役割、３）21 世紀型科学・技術リベラルアーツ教育への貢献の３つを、柱として活動しております。

2018 年は、新しい理念・体制の 3 年目として、様々な活動を本格化させた年といえます。研究プロジェクトについては、「自動車の革新的技術の社会的インパクト」、「地域コミュニティと革新的技術」、「AI と人にやさしい未来社会の構築：フューチャー・デザインによるアプローチ」、「Fintech の進展と新しいビジネスモデルのあり方に関する実験社会科学研究」という４つのテーマを柱とし、それに関心を持つ学内外の研究者との共同研究を推進しています。

「自動車の革新的技術の社会的インパクト」については、第 16 回 ITS シンポジウム 2018「人・社会の活動を支える ITS ～モビリティサービスによる社会の変革」（主催：特定非営利活動法人 ITS Japan・同志社大学）について、同志社大学モビリティ研究センターと共に、プログラム編成とシンポジウムの運営に尽力致しました。また、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の公募事業「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第２期／自動運転（システムとサービスの拡張）／自動運転による交通事故低減等へのインパクトに関する研究」を東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構との共同研究として受託いたしました。さらに、SIP-adus を中心に自動運転の社会・経済インパクトに関する議論に貢献する活動を行いました。

「地域コミュニティと革新的技術」については、サイバー・フィジカル連携システムの活用という観点から研究を進めることとし、この考え方の下で 2019 年度から活動を本格化させることとしました。

「AI と人にやさしい未来社会の構築：フューチャー・デザインによるアプローチ」と「Fintech の進展と新しいビジネスモデルのあり方に関する実験社会科学研究」は、合わせて 41 回の経済実験を実施し、その結果を分析・研究してジャーナル投稿への準備を進めています。また、学内外の多くの研究者・大学院生に経済実験の考え方や手法を知ってもらうため、「経済実験チュートリアル・セミナー」を開催しました。

また、ITEC の産官学連携並びに文理融合のプラットフォーム機能としての活動として、学内外の研究者を招聘したセミナーを開催し、数多くの方々にご参加頂きました。さらに、新しい活動として、今出川校地と京田辺校地に分散する研究者の交流を促進し、文理融合・学際的研究課題を発掘・発展させるべく、研究員の相互交流の活性化をはかる仕組みの検討を行いました。この検討結果に基づく活動は、2019 年度に本格化させていく所存です。

このような 2018 年度の活動の成果は、ITEC に関わって下さった関係機関の皆様方のご支援によるものです。こころより感謝の意を表するとともに、こうした成果をさらに発展させ、その蓄積を、同志社大学を担う次世代の研究者に引き継いで参る所存であります。

同志社大学
技術・企業・国際競争力研究センター(ITEC)
センター長　　三好 博昭

３．構成員一覧

ITEC は、兼担研究員、客員教授、嘱託研究員（共同研究員・院生研究員）で構成されている。兼担研究員は同志社大学の専任教員、客員教授・嘱託研究員（共同研究員）は、他の大学や研究機関、企業から招聘した研究者・専門家・実務家であり、嘱託研究員（院生研究員）は同志社大学の大学院生である。

ITEC の運営に関する事柄は、研究開発推進機構との協議の下、マネジメント・コミッティで決定される。このマネジメント・コミッティは、センター長と、センター長が本学教員の中から委嘱する若干名で構成されている。

ITEC での職名	氏名	本務機関・役職（2018 年時点）
センター長、 兼担研究員、マネジメント･コミッティ	三好 博昭	同志社大学 政策学部 教授
ディレクター、 兼担研究員、マネジメント･コミッティ	田口 聡志	同志社大学 商学部 教授
副センター長、 兼担研究員、マネジメント･コミッティ	山本 達司	同志社大学 商学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	柿本 昭人	同志社大学 政策学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	川上 敏和	同志社大学 政策学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	川本 哲郎	同志社大学 法学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	佐藤 健哉	同志社大学 理工学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	松村 恵理子	同志社大学 理工学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	八木 匡	同志社大学 経済学部 教授
兼担研究員	上田 雅弘	同志社大学 商学部 教授
兼担研究員	金田 重郎	同志社大学 理工学部 教授
兼担研究員	河瀬 彰宏	同志社大学 文化情報学部 助教
兼担研究員	下原 勝憲	同志社大学 理工学部 教授
兼担研究員	田中 希穂	同志社大学 免許資格課程センター 准教授
兼担研究員	辻村 元男	同志社大学 商学部 教授
兼担研究員	内藤 徹	同志社大学 商学部 教授
兼担研究員	廣安 知之	同志社大学 生命医科学部 教授
兼担研究員	舩津 浩司	同志社大学 法学部 教授
兼担研究員	武蔵 勝宏	同志社大学 政策学部 教授
客員教授	David Cope	ケンブリジ大学 クレア・ホール校 ファウンデーションフェロー
客員教授	Douglas J. Crawford-Brown	ノースキャロライナ大学 チャペルヒル校 名誉教授

客員教授	Tim Minshall	ケンブリッジ大学 工学部 教授
客員教授	D. Hugh Whittaker	オックスフォード大学 ニッサン・インスティテュート 教授
客員教授	北山 忍	ミシガン大学 心理学部 教授
客員教授	西條 辰義	高知工科大学 フューチャー･デザイン研究センター 教授
客員教授	孫 林	上海社会科学院 部門経済研究所 副研究員
客員教授	手嶋 茂晴	名古屋大学 未来社会創造機構 産学共同研究部門 特任教授
客員教授	永井 正夫	一般財団法人日本自動車研究所 代表理事/研究所長
客員教授	西口 泰夫	株式会社ソシオネクスト 代表取締役会長兼 CEO
客員教授	花岡 達也	国立環境研究所 社会環境システム研究センター 主任研究員
客員教授	山内 麻理	株式会社ネクサス 代表取締役社長
嘱託研究員（共同研究員）	上野 康治	上野企画室 代表・プランナー
嘱託研究員（共同研究員）	内村 孝彦	特定非営利活動法人 ITS Japan 常務理事
嘱託研究員（共同研究員）	小川 一仁	関西大学 社会学部 教授
嘱託研究員（共同研究員）	恩田 学	GTM 税理士法人 代表社員/税理士
嘱託研究員（共同研究員）	片岡 孝夫	早稲田大学 商学部 教授
嘱託研究員（共同研究員）	上條 良夫	高知工科大学 マネジメント学部 教授
嘱託研究員（共同研究員）	坂井 康一	東京大学 生産技術研究所研究所 次世代モビリティー研究センター
嘱託研究員（共同研究員）	塩津 ゆりか	愛知大学 経済学部 准教授
嘱託研究員（共同研究員）	高橋 正哉	高橋公認会計士事務所 所長/公認会計士/税理士
嘱託研究員（共同研究員）	橋本 誠志	徳島文理大学 総合政策学部 専任講師
嘱託研究員（共同研究員）	廣瀬 喜貴	大阪市立大学 経営学研究科 准教授
嘱託研究員（共同研究員）	本田 康二郎	金沢医科大学 人間科学領域 准教授
嘱託研究員（共同研究員）	三船 恒裕	高知工科大学 マネジメント学部 准教授

嘱託研究員（共同研究員）	三輪 一統	神戸大学 経済経営研究所 講師
嘱託研究員（院生研究員）	飯嶋 秀樹	同志社大学大学院総合政策科学研究科
嘱託研究員（院生研究員）	王 嬌	同志社大学大学院総合政策科学研究科
嘱託研究員（院生研究員）	切山 英子	同志社大学大学院商学研究科
嘱託研究員（院生研究員）	桑内 美早	同志社大学大学院商学研究科
嘱託研究員（院生研究員）	澤田 雄介	同志社大学大学院商学研究科
嘱託研究員（院生研究員）	谷口 咲子	同志社大学大学院総合政策科学研究科
嘱託研究員（院生研究員）	山田 将晶	同志社大学大学院商学研究科
アシスタントディレクター	髙山 博	事務スタッフ
研究支援員	立川 貴子	事務スタッフ

４．2018 年度の主な活動

年	月	日	活　動　内　容
2018 年	4 月	2 日	第 16 回 ITS シンポジウム 2018 プログラム委員会
	4 月	6, 13, 20, 27 日	経済実験（第 1 号）［研究課題名：実験の大規模化に対応するための大学横断型参加者プールの設立に向けて］
	4 月	19 日	2018 年度第 1 回 ITEC マネジメント・コミッティ会議
	4 月	27 日	ITEC セミナー（株式会社三菱総合研究所 中條覚 氏）
	5 月	11 日	ITEC セミナー（同志社大学理工学部 下原勝憲 教授、愛知大学 塩津ゆりか 准教授、同志社大学理工学研究科 木村公哉 氏）
	6 月	14 日	第 16 回 ITS シンポジウム 2018 プログラム委員会
	6 月	14, 15, 22 日	経済実験（第 2 号）［研究課題名：ヒトのコミュニケーションと虚偽報告に関する経済実験］
	6 月	15 日	ITEC セミナー（政策研究大学院大学 有本建男 教授）
	7 月	6, 13 日	経済実験（第 3 号）［研究課題名：実験の大規模化に対応するための大学横断型参加者プールの設立に向けて］
	8 月	31 日	第 16 回 ITS シンポジウム 2018 プログラム委員会
	9 月	27 日	2018 年度第 2 回 ITEC マネジメント・コミッティ会議
	10 月	26 日	ITEC セミナー（ケンブリッジ大学クレア・ホール校 David Cope 教授）
	11 月	1, 2 日	経済実験（第 4 号）［研究課題名：実験の大規模化に対応するための大学横断型参加者プールの設立に向けて］
	11 月	9 日	ITEC セミナー（公益財団法人トヨタ財団会長 小平信因 氏）
	11 月	12 日	デンマーク企業 CEO 来訪

	11 月	30 日	経済実験（第 5 号）［研究課題名：企業会計の契約支援機能に関する理論的・実験的研究］
	12 月	12 日	ITS Networking Day for Foreign Students
	12 月	13, 14 日	第 16 回 ITS シンポジウム 2018（ITS Japan・同志社大学主催）
	12 月	28 日	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の委託調査研究事業：平成 30 年度「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第 2 期／自動運転（システムとサービスの拡張）／自動運転による交通事故低減等へのインパクトに関する研究」を東京大学生産技術研究所と共に受託決定
2019 年	1 月	9 日	ITEC セミナー（石原公認会計士事務所所長 石原佳和 氏）
	1 月	25, 30, 31 日	経済実験（第 6 号）［研究課題名：ITEC 研究プロジェクト 4：Fintech の進展と新しいビジネスモデルのあり方に関する実験社会科学研究］
	1 月	29 日	2018 年度第 3 回 ITEC マネジメント・コミッティ会議及び総会
	2 月	16 日	室町祭（同志社大学室町キャンパス～知とビジネスの交流祭～）田口聡志講演『未来の経済をデザインする：実験社会科学からのアプローチ』
	2 月	27 日	ITEC ホームページ リニューアル
	3 月	8 日	経済実験チュートリアル・セミナー
	3 月	18 日	ITEC / RISTEM ジョイントセミナー（Prof. Tim Minshall, Head of the Institute for Manufacturing, University of Cambridge

５．2018 年度研究プロジェクト

5.1　プロジェクト１「自動車の革新的技術の社会的インパクト」

プロジェクト・マネージャー

三好 博昭（ITEC センター長）

プロジェクト内容

Google 社のドライバーレスカーの公道実験が開始されて以降、自動走行システムに世界の注目が集まっている。日本でも、悲惨な交通事故撲滅の切り札、高齢者など交通弱者への移動手段の提供、バス・トラック運転手の人手不足と高齢化への対応等との観点から、自動運転に対する社会的関心は非常に高い。本研究は、この自動走行システムをはじめとする自動車の革新的技術の社会的インパクト、技術の社会普及を促進するための政策、新しい技術を活かす社会の仕組み等を検討する。

１）研究活動

本年度は、第 16 回 ITS シンポジウム 2018「人・社会の活動を支える ITS ～モビリティサービスによる社会の変革」（主催：特定非営利活動法人 ITS Japan、同志社大学）において、兼担研究員の佐藤健哉と三好博昭が、プログラム委員長を務めると共に、ITEC は共催者として本シンポジウムの成功に尽力した。このシンポジウムでは、従来にも増して文理融合的な議論を重視し、この考えの下、「AI と倫理」の議論はなぜ噛み合わないのか？」、「自動運転がもたらす社会の変革」、「Mobility as a Service で描く都市交通」といった企画セッションを設置した。また、「体験！自動運転カーの経済価値に関する経済実験」として、シンポジウムの参加者に社会科学における「実験」を疑似体験していただいた。

一方、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の公募事業に、東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構と ITEC とで共同提案を行い、「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第２期／自動運転（システムとサービスの拡張）／自動運転による交通事故低減等へのインパクトに関する研究」を受託することとなった。また、この研究の一環として行う国際連携活動は、自動走行技術の研究開発の推進に関する日独共同声明に基づく日独共同研究のうちの「社会経済インパクト評価」として位置づけられることになった。この日独共同研究は 2019 年度から本格的に稼働する。

この他、SIP-adus を中心に、自動走行システムの社会・経済インパクトに関する議論に貢献する活動を行った。国際的な活動としては、SIP-adus Workshop 2018 と ITS World Congress 2018 という 2 つの国際専門家会議に登壇した。国内では、日本経済政策学会第 75 回（2018 年度）全国大会の共通論題セッションで講演を行った他、第 13 回日本 ITS 推進フォーラム、日本自動車技術会等の会議で発表を行った。

① 論文

- 三好博昭、第８章「自動運転の社会へのインパクト」、佐竹光彦・飯田泰之・柳川隆編、『アベノミクスの成否【日本経済政策学会叢書１】』、pp.142-162、勁草書房、2019 年 1 月
- 三好博昭、「経済学からみた自動運転：普及政策の考え方」、『高速道路と自動車』第 62 巻第１号、pp.12-15、公益財団法人高速道路調査会、2019 年 1 月

② 学会発表・会議報告等

- 三好博昭、「自動運転の社会へのインパクト」、日本経済政策学会第 75 回（2018 年）全国大会、2018 年 5 月
- Hiroaki Miyoshi and Koichi Sakai, “Discussing the Impact of Automated Driving: A Serious Game”, Special Interest Session 89, ITS World Congress 2018, Copenhagen, 2018 年 9 月
- 三好博昭、「自動運転の社会経済インパクト」、自動車技術会第８回映像情報活用部門委員会、2018 年 10 月
- Hiroaki Miyoshi, “Economic Analysis of Automated Driving Systems”, Impact Assessment Session, the 5th SIP-adus Workshop on Connected and Automated Driving Systems, Tokyo International Exchange Center, 2018 年 11 月
- 三好博昭、「自動運転導入の課題と社会受容性」、第４回オートモティブ・ソフウェア・フロンティア パネルディスカッション、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター、2019 年 2 月
- 三好博昭、「SIP-adus 各領域報告：Impact Assessment（社会的影響）」、第 13 回日本 ITS 推進フォーラム、メルパルク東京、2019 年 2 月

２）教育・社会還元活動

① セミナー開催

開催日	タイトル	講演者（敬称略）
2018 年 4 月 27 日	ダイナミックマップの展開と国際標準化	株式会社三菱総合研究所 次世代インフラ事業本部 中條 覚 氏
2018 年 11 月 9 日	大変革期にある自動車産業	公益財団法人トヨタ財団会長 元資源エネルギー庁長官 元トヨタ自動車副社長 小平 信因 氏

② その他

第 16 回 ITS シンポジウム 2018「人・社会の活動を支える ITS ～モビリティサービスによ

る社会の変革」（主催：特定非営利活動法人 ITS Japan、同志社大学）において、兼担研究員の佐藤健哉と三好博昭がプログラム委員長を務めた。また、ITEC は共催者として参画した。

３）競争的外部資金

- 科学研究費助成事業　挑戦的萌芽「自動走行システムの社会的厚生分析」（研究代表者：三好博昭）（2016 年度－2018 年度）
- 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）調査委託「戦略的イノベーション創造プログラム（ＳＩＰ）第２期／自動運転（システムとサービスの拡張）／自動運転による交通事故低減等へのインパクトに関する研究」（2018 年度－2020 年度）

5.2　プロジェクト２「地域コミュニティと革新的技術」

プロジェクト・マネージャー

三好 博昭（ITEC センター長）

プロジェクト内容

地域コミュニティは、個人と行政との間にある緩衝体として、その紐帯が、犯罪や災害から地域の安全性を高めるとともに、困難に陥った個人の孤立を緩和する機能、生活に不可欠な情報を提供す機能、伝統文化を継承する機能など、様々な機能を有している。しかしながら、都市部においては、中心商店街の衰退、単身世帯と人口移動の増加、インターネット等の普及に伴う機能集団の形成の容易化等が相俟って、個々人が切迫した困難に遭遇しない限り、地域コミュニティの重要性に気付くこともなく、また、従来地域コミュニティを支えてきた担い手も減少しているのが実態である。地方部においては、都市部に比べれば地域コミュニティの役割は人々に認識されているが、高齢化と人口減少によって、そもそも地域コミュニティの機能を維持することが困難になりつつある。このように地縁に基づく地域コミュニティは衰退の途にあるが、個人が人生の最後まで帰属できるコミュニティは地域コミュニティであり、高齢化が急速な勢いで進む中で、その有する役割を再確認し、サステナブルな形態に変化させた上で、その役割を継承していくことが重要である。本プロジェクトでは、今後の地域コミュニティの役割を確認した上で、高性能なセンサー技術や測位技術、AI をはじめとする様々なデータ処理技術、さらには自動走行システム等の革新的な技術が、地域コミュニティの機能、機能の提供形態、担い手、運営方法等をサステナブルなものにしていく上で、如何に有効活用できるのかを模索する。

１）研究活動

本研究は、サイバー・フィジカル連携システムの活用という観点から研究を進めることとし、2018 年度は研究チームの立ち上げと、競争的外部資金の獲得に焦点を絞った。

２）教育・社会還元活動

① セミナー開催

開催日	タイトル	講演者
2018 年 5 月 11 日	コミュニティをデザインする	同志社大学理工学部 情報システムデザイン学科 教授 下原 勝憲 氏 愛知大学経済学部 准教授 塩津 ゆりか 氏 同志社大学大学院理工学研究科 博士後期課程 木村 公哉 氏

5.3 プロジェクト３「AI と人にやさしい未来社会の構築：フューチャー・デザインによるアプローチ」

プロジェクト・マネージャー

田口 聡志（ITEC ディレクター）

プロジェクト内容

AI を中心とするテクノロジーの進展に見合う新しい経済社会制度の設計は、喫緊の課題であるといえるが、現状では、その点に関する議論が未だ成熟しているとは言い難い。そこで本プロジェクトでは、経済実験、特にフューチャー・デザインという社会科学では比較的新しい方法論により、人間と AI が共存する未来の社会をどのようにデザインするか、領域横断的に検討する。最終的には、現実の経済制度設計、ひいては未来の地球を見据えた新たな知見を得ることを大きな目標とする。

１）研究活動

2018 年度は、プロジェクト 4（Fintech）等と合わせて、合計 41 回の経済実験を実施した。現在、その結果を分析し、海外査読ジャーナル投稿への準備を進めている。また併せて、外部資金獲得のための準備も進めている。

さらに、論文執筆と学会報告の他にも、AI など新しいテクノロジーの社会的受容を考える研究活動の一環として、第 16 回 ITS (Intelligent Transport Systems) シンポジウム 2018 の企画セッション（パネルディスカッション）「『AI と倫理』の議論はなぜ噛み合わないの

か？」において、田口がモデレータを担当すると共に、同シンポジウムの参加者を被験者とする経済実験（自動運転カーの経済価値に関するセカンドプライスオークション実験）を行った。なお、経済実験の結果については、現在ワーキングペーパーとして公表する準備を進めている。

さらに研究活動の重要なインフラ部分となる経済実験のプラットフォームについて、他大学との連携を図るべく、現在、高知工科大学フューチャーデザイン研究所、および関西大学実験経済学研究センターとの包括提携に向けて準備を進めており、2019 年春学期の締結を目指して作業を進行している。

① 論文

- 田口聡志、「AI 時代の会計の質の変容と「フューチャー・ハザード」」、『企業会計』71(1)、pp.89-96、2018
- 田口聡志、「AI 時代の監査報酬を考える−A preliminary report−」、日本監査研究学会課題別研究部会編、『テクノロジーの進化と監査』第 12 章、pp.120-145、2018
- Satoshi Taguchi and Yoshio Kamijo, “Intentions behind disclosure to promote trust under short-termism: An experimental study”, Kochi University of Technology SDES (Social Design Engineering Series) No. 2018-8, pp.1-48, 2018.
- Yusuke Sawada, Yoshitaka Hirose, and Satoshi Taguchi, “An Experimental Study on Potential Whistleblowing Intentions: A Dilemma of Fairness and the Risk of Reporting”, SSRN working paper available at SSRN, pp.1-36, 2019.

② 学会発表・会議報告等

- 田口聡志、「Intentions behind disclosure to promote trust under short-termism: An experimental study」、第 22 回実験社会科学カンファレンス、セッション「制度設計実験」名古屋市立大学、招待講演、2018 年 12 月 23 日
- 田口聡志、「AI 時代の会計・監査の危機：実験で考える」、日本公認会計士協会関西地区三会（近畿会・京滋会・兵庫会）共催研修会（IT 委員会）、招待講演、2019 年 3 月 28 日

２）教育・社会還元活動

① セミナー開催

開催日	タイトル	講演者
2019 年 3 月 8 日	経済実験チュートリアル・セミナー	同志社大学 ITEC ディレクター 田口 聡志 多摩大学経営情報学部 専任講師 後藤 晶 氏

これまで実施してきた経済実験を、学内外の多くの研究者・大学院生に知ってもらう

ことを趣旨として、「経済実験チュートリアル・セミナー」を開催した。

経済実験の体験やプログラミング入門のほか、web クラウド実験の第一人者である後藤晶氏（多摩大学）を講師に招いてレクチャーも実施。学内だけでなく、他大学からも多くの研究者・大学院生が参加して交流を図ることができ、実験分析やそれを用いた共同研究を促進するための土台作りが行えた。参加者によるインターアクションの時間を設けることで、お互いの問題意識や経済実験への思いを共有することができた。

経済実験の手法をより広く知らせ、かつ ITEC をプラットフォームとした研究者間のコラボレーションを更に進展させていきたい。

② その他

同志社大学学内イベントにも積極的に参加し、寒梅館に集う司法研究科・ビジネス研究科等が、知とビジネス交流の促進を図るために主宰した「同志社大学室町祭」（2019 年 2 月 16 日）にて、「未来の経済をデザインする：実験社会科学からのアプローチ」と題して、田口が公演を行った。

5.4 プロジェクト４「Fintech の進展と新しいビジネスモデルのあり方に関する実験社会科学研究」

プロジェクト・マネージャー

田口 聡志（ITEC ディレクター）

プロジェクト内容

金融危機や IT 技術の発展を背景に、近年 Fintech と呼ばれる IoT・ビッグデータ・ブロックチェーン・人工知能などの技術を使った革新的な金融サービスが登場している。Fintech が現在カバーする領域は決済・送金、家計管理、企業会計、資産運用、資金調達、融資、保険等多岐に渡り、さらに単なる業務の IT 化を超え、資金の流れや産業構造、ひいては価値創造の手法そのものを大きく変えるような社会的インパクトをもたらしつつある。そのインパクトを予測し、技術の進展に見合う新しい経済制度やビジネスのあり方を設計することは喫緊の課題であるといえ、特に現実社会への制度・政策実装の段階では、その効果を事前に如何に予測するかが重要な鍵となる。しかしながら、既存の方法論では極めて困難が伴う。そこで本研究では、「経済実験」により、そのような問題を克服し、Fintech の進展に見合う新しい経済制度やビジネスのあり方を検討する。

１）研究活動

本プロジェクトの本格的な活動スタートとなる 2019 年度を見据えて、2018 年度は、その基礎的な部分についてのサーベイを行うと共に、次年度以降の本格的な経済実験実施につ

ながるパイロット実験を行った。また併せて、外部資金獲得のための準備も進めている。

① **論文**

- Kazunori Miwa, Satoshi Taguchi, and Tatsushi Yamamoto, “The Escalation of Lies: An Experimental Study of the Repeated Deception Game”, RIEB Discussion Paper Series No.2019-08, 2019.

② **学会発表・会議報告等**

- 田口聡志、「ウソのエスカレーション : 実験社会科学で企業不正の根幹に迫る」、東北学院大学経営研究所第 48 回研究会、招待講演、2018 年 7 月 19 日
- Kazunori Miwa, Satoshi Taguchi, and Tatsushi Yamamoto, “The Escalation of Lies: An Experimental Study of the Repeated Deception Game”, 2018 American Accounting Association Annual Meeting, Concurrent Session "Audit–Trust and Deception", Gaylord National Resort & Convention Center, Washington DC, USA, August 8, 2018.

２）教育・社会還元活動

① **セミナー開催**

開催日	タイトル	講演者
2019 年 1 月 9 日	到来した AI 時代と公認会計士業務について	公認会計士 石原公認会計士事務所所長 石原 佳和 氏

３）その他

「AI 時代の新しい実務家教育」に結びつける一環として、日本公認会計士協会近畿会 IT 部会との連携を進め、研究成果の実務への応用のあり方や実務教育のあり方について意見交換を行っている。

６．ITEC セミナー開催

ITEC セミナーは、1）研究の質の向上、2）メンバー間並びに関連分野の専門家との連携強化、3）研究成果の社会還元を目的に、ITEC の研究分野に関連する専門家を講師としてお招きし、講演と討論を行う形態で開催するものである。

2018 年度は様々なテーマについて、合計 7 回の ITEC セミナーを開催し、延べ 364 名の研究者、専門家、学生、一般市民の参加を得た。

セミナーの具体的内容は以下の通りである。（広報用フライヤーから引用）

① 論題：「ダイナミックマップの展開と国際標準化」

講師：株式会社三菱総合研究所　次世代インフラ事業本部
インフラビジネスグループリーダー　中條 覚 氏

日時：2018 年 4 月 27 日（金）13:00～14:30

場所：今出川校地 寒梅館 3 階 プレゼンテーションホール

概要：自動運転のさらなる展開へ向けて、次世代のデジタル地図基盤となる「ダイナミックマップ」の具体化が進んでいる。本講演では、ダイナミックマップの概要、標準化の現状と今後の見通し、および自動運転以外も含めた活用可能性や社会へのインパクトについて概説する。

１．ダイナミックマップの概要
～デジタル地図の変革とダイナミックマップの役割～

２．標準化の現状と見通し
～国際協調の実現へ向けて～

３．ダイナミックマップの展開可能性
～様々な活用可能性と社会インパクト～

② 論題：「コミュニティをデザインする」

講師：同志社大学理工学部　下原 勝憲 教授
愛知大学経済学部　塩津 ゆりか 准教授
同志社大学大学院理工学研究科 博士後期課程 木村 公哉 氏

日時：2018 年 5 月 11 日（金）15:00～16:30

場所：今出川校地 寒梅館 3 階 プレゼンテーションホール

概要：コミュニティとは、住民同士（ヒト）が地域の施設など物理的な空間資源（モノ）と目に見えない制度や規則・地域の祭りなどイベント（コト）と共存しながら日常生活・社会・経済活動を営む場である。人々が日常的に生み出すヒト・モノ・コトとの関わりは、将来的に地域社会に便益をもたらすことが期待できる社会的・経済的価値の源泉であり、誰もが大事だと思い、その価値を信じ、自ら関わりを求めることにより資産として機能し、トラストとなると考えている。私たちは、コミュニティの活性化に向けて、コミ

ュニティにおけるヒト・モノ・コト相互間の関係性に着目したフィールドワークを展開している。具体的には、ヒト・モノ・コトの関係性データを収集・編集・表現するためのプラットフォームを構築して、①住民が日常生活を営むなかで自然に生み出すヒト・モノ・コトとの関わりを一人ひとりが獲得する関係資産として定量化・可視化し、関わりへの気づきを喚起する仕組み、②関係資産を住民自らが増やすべく関わりそのものに投資することを通じて関係資産を維持・運用する持続的な仕組み、さらには③地域公共財の自発的供給に着目し、地域コミュニティ課題の可視化を通じた協調行動の誘発の仕組みの構築を目指しています。本講演では、それらの仕組みづくりに向けた研究概要とともにフィールドでの実証実験結果を紹介し、今後の研究展開の方向性等について議論したいと考えます。

1.「システムとしてのコミュニティ・デザイン」
下原 勝憲（同志社大学理工学部）
コミュニティをヒト・モノ・コトの関係性から成るシステムと捉えた関係性デザインの考え方について紹介。

2.「ICT を活用したまちづくりの事例研究」
塩津 ゆりか 氏（愛知大学経済学部）
都市近郊の公共交通空白地帯で、従来型のアンケート調査から得た知見で ICT を活用した住民主体のコミュニティバス運営に必要なシステムを提案。

3.「ICT を活用したプラットフォームの構築と実証実験の概要」
木村 公哉（同志社大学大学院理工学研究科）
関係性データの収集・編集・表現のために構築したプラットフォームを用いて行った実証実験の結果と今後の展開について紹介。

③　論題：「持続可能社会の実現と科学技術―国連決議への対応と課題」

講師：政策研究大学院大学 教授、科学技術振興機構 上席フェロー、
外務省 科学技術外交推進会議委員　有本 建男 氏

日時：2018 年 6 月 15 日（火）13:00～14:30

場所：今出川校地 寒梅館 3 階 プレゼンテーションホール

概要：2015 年 9 月の国連総会で、21 世紀前半の世界全体の開発目標（「持続可能な開発目標」“Sustainable Development Goals （SDGs）：“Transforming our world”）が全会一致で決議された。途上国と先進国が協働して次の目標を達成しようという挑戦的な価値追求である。

○貧困、飢餓をなくす　○健康と福祉　○質の高い教育　○ジェンダー　○水と衛生　○持続可能なエネルギー確保　○持続的な経済成長と人間らしい雇用　○持続可能なインフラ、産業、イノベーション　○人と国の不平等是正　○安全で持続可能な都市・居住　○持続可能な生産と消費のバランス　○気候変動対策　○海洋・陸域資源の保全と利用　○平和で包摂的な社会　○目標達成のための手段とグローバル・パートナーシップの開発

SDGs は地球規模の課題解決という視点だけでなく、将来の大きな市場であり、科学技術のフロンティアであり、地域振興や投資の対象という見方もできる。本セミナーでは、SDGs 達成のために科学技術への期待が高まる中、各国や世界レベルで産学官のネットワーク、イノベーション・投資システムの改革が急速に進んでいる状況を紹介し議論する。

④　論題：「Technology and Education as the Nexus Between the Sustainable Development Goals」

講師：ケンブリッジ大学クレア・ホール校
ファウンデーションフェロー　Prof. David Cope

日時：2018 年 10 月 26 日（金）13:10～14:40

場所：今出川校地 寒梅館 2 階 KMB212

概要：Since their adoption by the UN General Assembly in 2015, the 17 “Sustainable Development Goals” – aimed at transforming global circumstances by 2030, have seen a remarkable level of acclamation – and, more importantly, endorsement and adoption, by a huge number of organisations and institutions, ranging from the local to the international.

A particular issue in their dissemination is their large number, leading to many suggestions for their simplification and prioritisation.　Prof. Cope has suggested that the optimum way to achieve this is to concentrate on the links between the individual

goals – their nexus.　He has further argued that the key linkages lie in the areas of science and technology and education – and that the contribution of work in these fields will determine the extent of achievement of the ambitious goals by the deadline of 2030.

⑤　論題：「大変革期にある自動車産業」
講師：公益財団法人トヨタ財団会長、元資源エネルギー庁長官、
元トヨタ自動車副社長　小平 信因 氏
日時：2018 年 11 月 9 日（金）15:30～17:00
場所：今出川校地 寒梅館地下 1 階 会議室地 A
概要：内燃機関を使った自動車の生産・利用が本格化してから 100 年余り。現在、自動車産業は「100 年に一度」と言われる大変革期を迎えている。これらの変革は、CASE(Connected－つながるクルマ、Autonomous－自動運転、Shared－共同利用・共有、Electric－電動化)とも言われる。講演においては、経済全体において自動車産業が占める位置を概観した上で、CASE に焦点を当てつつ、自動車産業を取り巻くグローバルな環境がどのように変化し、自動車産業がそれらにどう対応しようとしているのか、対応を進めていく上でどのような課題があるのか、各国政府はどのような政策等を実施し、また、講じようとしているのか等に関して紹介する。

⑥　論題：「到来した AI 時代と公認会計士業務について」
講師：公認会計士、石原公認会計士事務所所長
石原 佳和 氏
日時：2019 年 1 月 9 日（水）16:40～18:10
場所：今出川校地 至誠館 S32 教室
概要：ここ数年の IT（情報技術）の進歩には、目覚ましいものがある。ポナンザやアルファ碁が登場し、将棋や囲碁において AI がプロ棋士に勝つようになった。オックスフォード大学のレポートで、AI によって失われる職業に公認会計士が挙げられたりするようになった。AI というキーワードの他に、フィンテック（Finance×Technology）や RPA（Robotics Process Automation）というキーワードと共に、到来した AI 時代と公認会計士の業務についてお話しする。

⑦　論題：ITEC / RISTEM Joint Seminar

「Developing manufacturing engineers for the ‘4th industrial revolution’ and beyond」

講師：Prof. Tim Minshall

Head of the Institute for Manufacturing,

University of Cambridge,

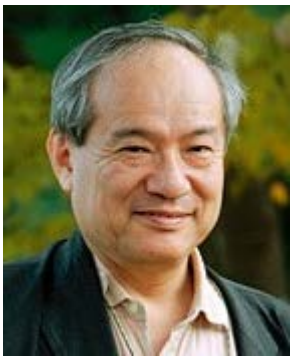
Mr. Hajime Ohiwa, guest commentator

Professor emeritus of information science at Keio University

Tim Minshall

日時：2019 年 3 月 18 日（月）18:00～19:30

場所：今出川校地 寒梅館 3 階 プレゼンテーションホール



Hajime Ohiwa

概要：How do we know what skills will be required of manufacturing engineers in the future? The complexity, systemic nature, and rapid pace of change in manufacturing technologies presents many challenges for the development of the manufacturing workforce in the short, medium, and long term, and this can be clearly seen through the current transformation towards the ‘4th Industrial Revolution’. This raises numerous challenges for the development of: (1) those currently in the workforce, (2) students currently in full-time education and about to enter the workforce, and (3) children still at the earlier stages of their education. The two broad classes of problems need to be addressed: firstly, what are the skills required? and secondly, how/when can these skills be acquired?

７．イベント・トピックス

7.1　第 16 回 ITS シンポジウム 2018

（特定非営利活動法人 ITS Japan ホームページ掲載の第 16 回 ITS シンポジウム 2018 開催概要並びにプログラムから作成）
http://www.its-jp.org/event/its_symposium/16th2018/
http://www.its-jp.org/event/its_symposium/16th2018/program/

テーマ：人・社会の活動を支える ITS ～モビリティサービスによる社会の変革

昨今の技術の発展に伴い、いよいよ自動運転が形になりつつある時代が到来してきた。さらに、コネクテッド、シェアリング、電動化も含め，ITS においてこれら CASE（Connected, Automated, Shared & Electric）の技術がますます重要となっている。

一方で、従来型のモノの提供から新たなサービスの提供への変革期が訪れているとも言われている。クルマに加えて新しい都市交通手段を含め、社会全体として人・モノの移動を支援するモビリティ社会を実現するためのイノベーションを前提として考えていく必要がある。

具体的なモビリティサービス（Mobility as a Service）として社会に受け入れられるためには、これまでの ITS に関する先端技術の研究開発に加え、社会的受容性や経済効果を考慮した新たな社会制度の構築など、社会科学の観点からの検討も不可欠である。

このように、ITEC の持つ研究テーマとも共鳴して、ITS シンポジウム 2018 は、学生の街であり伝統と変革の都市である京都の本学を会場として、文理双方の研究者と次世代を担う技術者の卵を含め、最先端の自動運転技術や交通事故削減、環境負荷軽減、道路インフラの維持・発展、社会制度の変革など、様々な論点から活発な議論が行われた。

【会期】2018 年 12 月 13 日(木) ～14 日(金)
【会場】同志社大学 今出川校地室町キャンパス 寒梅館
【主催】特定非営利活動法人 ITS Japan / 同志社大学
【共催】同志社大学 技術・企業・国際競争力研究センター
　　同志社大学 モビリティー研究センター
【協賛】公益社団法人 計測自動制御学会　　一般社団法人 交通工学研究会
　　公益社団法人 自動車技術会　　一般社団法人 情報処理学会
　　一般社団法人 人工知能学会　　一般社団法人 電気学会
　　一般社団法人 電子情報通信学会　　公益社団法人 土木学会
　　一般社団法人 日本機械学会　　日本交通心理学会
　　一般社団法人 日本ロボット学会　　自動車技術会 ITS 部門委員会
　　情報処理学会高度交通システムとスマートコミュニティ(ITS)研究会

情報処理学会コンピュータビジョンとイメージメディア研究会
情報処理学会ユビキタスコンピューティングシステム研究会
電気学会 ITS 技術委員会
電子情報通信学会高度交通システム研究会

【実行委員長】　松岡 敬　同志社大学 学長
【プログラム委員長】佐藤 健哉　同志社大学理工学部情報工学専攻 教授
同志社大学モビリティー研究センター長
三好 博昭　同志社大学政策学部 教授
同志社大学技術・企業・国際競争力研究センター長
【開会挨拶】　松岡 敬　同志社大学 学長
天野 肇　特定非営利活動法人 ITS Japan 専務理事

【基調講演】　「モビリティサービスによる社会変革」
鈴木 裕人　アーサー・D・リトルジャパン パートナー
【企画セッション1】「「AI と倫理」の議論はなぜ噛み合わないのか？」
モデレータ　田口 聡志　同志社大学商学部 教授
パネリスト　江間 有沙　東京大学 政策ビジョン研究センター 特任講師
曽我部 完　株式会社グリッド 代表取締役
林 秀弥　名古屋大学大学院 法学研究科 教授
【企画セッション2】「自動運転がもたらす社会の変革」
モデレータ　三好 博昭　同志社大学政策学部 教授
パネリスト　糸久 正人　法政大学 社会学部 准教授
岩本 晃一　経済産業研究所 / 日本生産性本部 上席研究員
紀伊 雅敦　香川大学 創造工学部 教授
坂井 康一　東京大学 生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター
准教授
【企画セッション3】「Mobility as a Service で描く都市交通」
モデレータ　土井 勉　大阪大学 CO デザインセンター特任教授 /
グローカル交流推進機構理事長
パネリスト　藤垣 洋平　日本学術振興会 特別研究員（東京大学大学院工学系研究科）
木津 雅文　トヨタ自動車株式会社 MaaS 事業部 担当部長
大久保 園明　京阪バス株式会社 ICT 推進部
鈴木 章一郎　京都市 都市計画局 局長
【対話セッション】（ポスターセッション）8 つのセッションで 98 編の論文が発表された。
【特別イベント】「体験！自動運転カーの経済価値に関する経済実験」

7.2　同志社大学室町キャンパス「室町祭」

同志社大学室町キャンパスにある寒梅館には、ビジネス研究科、司法研究科の 2 つの専門職大学院の他に、知とビジネス交流を活性化させる団体、リエゾンオフィス、NPO 法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク、ITEC がある。知とビジネス交流の促進のため、初の合同イベントとして、「知とビジネス交流祭」を開催した。

主催：　D-BRIDGE（NPO 法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク）
　　ITEC（技術・企業・国際競争力研究センター）
　　DBS（同志社ビジネススクール）ネットワーク
　　同志社大学大学院司法研究科アラムナイアソシエーション寒梅会
後援：　同志社大学リエゾンオフィス
日時：　2019 年 2 月 16 日（土）
場所：　同志社大学 室町キャンパス 寒梅館 211 教室

セミナー
13:00～　リエゾンオフィス・ビジネスプランコンテスト 2007 年優勝者
　　田中 淳士 氏（株式会社食一 代表取締役社長）
14:00～　司法研究科同窓会『寒梅会』より
　　上田 隆貴 氏（日本橋法律事務所 弁護士）
15:00～　ITEC（同志社大学技術・企業・国際競争力研究センター）より
　　田口 聡志（同志社大学商学部 教授・ITEC ディレクター）
　　『未来の経済をデザインする：実験社会科学からのアプローチ』
　　AI などの新しいテクノロジーの進展が未来社会に及ぼす影響について、近年注目を浴びている実験経済学・行動経済学を用いて検討することで、ヒトと AI との共存をどのように進めていくかを考えるヒントを探る内容で講演をおこなった。
16:00～　D-BRIDGE・社会起業家養成塾卒塾生より
　　日下部 淑世 氏（株式会社めい 共同代表）
17:00～　DBS ネットワーク共催第 77 回未来経営塾セミナー
　　宮垣 健生 氏（但馬信用金庫 常勤理事）

交流会
18:00～　寒梅館アマーク・ド・パラディにて

7.3　京都社会人交流会「NEXUS」

ITEC が定期的に開催しているセミナーの講師をゲストとしてお迎えし、これからの京都を担う企業人、公務員、研究者等有志の方に、情報交換や人的ネットワークを構築できる場を提供することを目的に、セミナー後に親睦会を開催した。

第 1 回
　日時：2018 年 10 月 26 日（金）
　ゲスト：Prof. David Cope（ケンブリッジ大学クレアホール ファウンデーションフェロー）
　参加者：10 名

第 2 回
　日時：2018 年 11 月 9 日（金）
　ゲスト：小平 信因 氏
　　（公益財団法人トヨタ財団会長・元資源エネルギー庁長官・元トヨタ自動車副社長）
　参加者：10 名

7.4　デンマーク視察団来訪

日時：　11 月 12 日（月）9:00－10:00
場所：　本学寒梅館 3 階　セミナールーム
来客：　計 6 名（大使館マネジャー、デンマーク企業 CEO 5 名）
応対：　三好 博昭、佐藤 健哉

デンマーク企業の CEO の方々が、世界各国の拠点を運営し、パートナーと協力しながら事業を展開していくにあたり、日本の社会情勢の変化や高齢化など、日本が抱える社会問題に対するアプローチについて興味をもたれている。今回の ITEC への訪問では、自動運転を話題とし、三好・佐藤から自動運転システムの技術や社会的インパクトについて説明し、意見交換を行った。

８．研究成果物

8.1　ワーキングペーパー

ITEC ワーキングペーパーシリーズは、ITEC が推進する研究プロジェクト及び、関連する研究者の研究成果を、ホームページにて発信するものである。
https://itec.doshisha.ac.jp/research/results/working_paper.html

ITEC では、直面する課題に関連した、質の高い研究の実施を目指している。本シリーズは、学術研究者に限らず、実業家、政策立案者等幅広い読者層を想定しているため、過度に専門的にならないように配慮している。2018 年度は、以下の合計 2 編（和文 2 編）のワーキングペーパーを公開した。著者、タイトルは以下の通りである。

- June 2018 / No. 18-01（和文論文）
  Author：　同志社大学 政策学部 川上敏和 教授
  Title：　不完全公的観測下の自己統治による効率性改善：数値例による考察
  Self-Governance under Imperfect Public Monitoring: A Study of Numerical Examples

- December 2018 / No. 18-02（和文論文）
  Author：　早稲田大学 商学部 片岡孝夫 教授
  Title：　自動運転技術とボトルネック渋滞
  Self-driving technology and bottleneck congestion

8.2　論文・投稿

- 三好博昭、第 8 章「自動運転の社会へのインパクト」、佐竹光彦・飯田泰之・柳川隆編、『アベノミクスの成否【日本経済政策学会叢書 1 】』、pp.142-162、勁草書房、2019 年 1 月
- 三好博昭、「経済学からみた自動運転：普及政策の考え方」、『高速道路と自動車』第 62 巻第 1 号、pp.12-15、公益財団法人高速道路調査会、2019 年 1 月
- 田口聡志、「AI 時代の会計の質の変容と「フューチャー・ハザード」」、『企業会計』71(1)、pp.89-96、2018
- 田口聡志、「AI 時代の監査報酬を考える−A preliminary report−」、日本監査研究学会課題別研究部会編、『テクノロジーの進化と監査』第 12 章、pp.120-145、2018
- Satoshi Taguchi and Yoshio Kamijo, “Intentions behind disclosure to promote trust under short-termism: An experimental study”, Kochi University of Technology SDES (Social Design Engineering Series) No. 2018-8, pp.1-48, 2018.
- Yusuke Sawada, Yoshitaka Hirose, and Satoshi Taguchi, “An Experimental Study on

Potential Whistleblowing Intentions: A Dilemma of Fairness and the Risk of Reporting", SSRN working paper available at SSRN, pp.1-36, 2019.

- Kazunori Miwa, Satoshi Taguchi, and Tatsushi Yamamoto, "The Escalation of Lies: An Experimental Study of the Repeated Deception Game", RIEB Discussion Paper Series No.2019-08, 2019.

8.3 研究発表・講演

- 三好博昭、「自動運転の社会へのインパクト」、日本経済政策学会第 75 回（2018 年）全国大会、2018 年 5 月
- Hiroaki Miyoshi and Koichi Sakai, "Discussing the Impact of Automated Driving: A Serious Game", Special Interest Session 89, ITS World Congress 2018, Copenhagen, 2018 年 9 月.
- 三好博昭、「自動運転の社会経済インパクト」、自動車技術会第８回映像情報活用部門委員会、2018 年 10 月
- Hiroaki Miyoshi, "Economic Analysis of Automated Driving Systems", Impact Assessment Session, the 5th SIP-adus Workshop on Connected and Automated Driving Systems, Tokyo International Exchange Center, 2018 年 11 月
- 三好博昭、「自動運転導入の課題と社会受容性」、第４回オートモティブ・ソフウェア・フロンティア パネルディスカッション、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター、2019 年 2 月
- 三好博昭、「SIP-adus 各領域報告：Impact Assessment（社会的影響）」、第 13 回日本 ITS 推進フォーラム、メルパルク東京、2019 年 2 月
- 田口聡志、「Intentions behind disclosure to promote trust under short-termism: An experimental study」、第 22 回実験社会科学カンファレンス、セッション「制度設計実験」名古屋市立大学、招待講演、2018 年 12 月 23 日
- 田口聡志、「AI 時代の会計・監査の危機：実験で考える」、日本公認会計士協会関西地区三会（近畿会・京滋会・兵庫会）共催研修会（IT 委員会）、招待講演、2019 年 3 月 28 日
- 田口聡志、「ウソのエスカレーション：実験社会科学で企業不正の根幹に迫る」、東北学院大学経営研究所第 48 回研究会、招待講演、2018 年 7 月 19 日
- Kazunori Miwa, Satoshi Taguchi, and Tatsushi Yamamoto, "The Escalation of Lies: An Experimental Study of the Repeated Deception Game", 2018 American Accounting Association Annual Meeting, Concurrent Session "Audit–Trust and Deception", Gaylord National Resort & Convention Center, Washington DC, USA, August 8, 2018.

同志社大学 技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）

〒602-0023 京都市上京区御所八幡町 103 寒梅館 3 階

E-mail: rc-itec@mail.doshisha.ac.jp

TEL: 075-251-3779 / FAX: 075-251-3139

2019 年 7 月